設立１０周年記念南武蔵野地区　VSオンラインイベント

活動報告誌

あなたが最後にボーイスカウトでキャンプに行ったのはいつでしたか？
これを読んでいる中には、一度もキャンプに行ったことがない人もいるでしょう。

戦後初の緊急事態宣言発令から1年以上が経過し、いまだ日本社会は混乱の渦の中。
先が見えない自粛生活に、もはや慣れまで生じてしまったのではないでしょうか。

そんな中で行われた、『オンラインイベント』。
合わせて200件以上の作品が応募され、予想以上の盛況となりました。

本誌ではこのイベントの1年以上にわたる歩みを振り返りその姿を記録することで、これからの地区、ひいては日本ボーイスカウトのあり方を考えたいと思います。

もくじ

プロジェクト活動進捗記録 ・・・3

各企画概要 ・・・4

各企画結果 ・・・5

インタビュー ・・・10

編集後記 ・・・21

プロジェクト活動進捗記録

２０２０

４月　緊急事態宣言発令

５月　狛江第１団内で今回のイベントのきっかけとなる
ネッカチーフリングデザインコンテストを開催

６月　狛江第１団内の活動をを元に、ベンチャースカウト
有志による地区イベントの地区内実施企画書提出

７月　企画書承認
運営スカウト募集開始

９月　初回会議実施

１０月　デザインコンテスト
ソング＆ゲーム紹介企画
おすすめスポット紹介企画
発足

２０２１

１月　デザインコンテストの地区協賛を得る

３月　各企画募集開始

５月　各企画募集締め切り

６月　各企画結果発表

各企画概要

・１０周年記念デザインコンテスト

自宅からも参加できる活動をプロデュースするため、南武蔵野地区設立１０周年を記念し、地区の協賛のもとで記念デザインを募集しました。

募集したデザインから*10*周年の記念品を製作することを目指しています。

・ネッカチーフリングコンテスト

自宅からも参加できる活動をプロデュースするため、自作のネッカチーフリングを募集しました。

・ソング＆ゲーム紹介

地区内での相互理解を推し進めるため、各隊独自のスカウトソングやゲームを募集しました。

・おすすめスポット紹介

コロナ禍での活動自粛が明けた時の活動をより多様にするために、普段隊の活動でよく訪れる場所を紹介する企画を行いました。

各企画結果

デザインコンテスト

最優秀賞　武蔵野第１団　ボーイ隊　奈良　さん

優秀賞

狛江第１団　ベンチャー隊　岡田成佑さん

武蔵野第１団　カブ隊　村田悠さん

部門賞

ビーバー部門

狛江第１団　*K.M.*さん

カブ部門

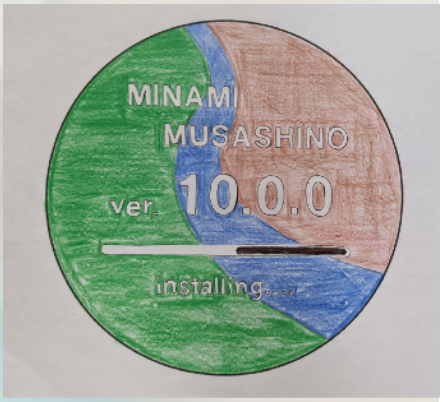
調布第３団　打越裕士郎さん

ボーイ部門

小金井第２団　藤野航世さん

ベンチャー部門

武蔵野第*1*団 山口大貴さん



ローバー・その他部門

府中第１団 萩原虹輝さん 国分寺第２団 佐野健太郎さん

団体賞

武蔵野第１団（２４作品）

ネッカチーフリングコンテスト

最優秀賞 小金井第2団 ボーイ隊 かなさん

優秀賞

狛江第1団 ローバー隊 大久保嵩琉さん

武蔵野第1団 カブ隊 村田悠さん

部門賞

ビーバー部門

狛江第*1*団 さいとうののかさん

カブ部門

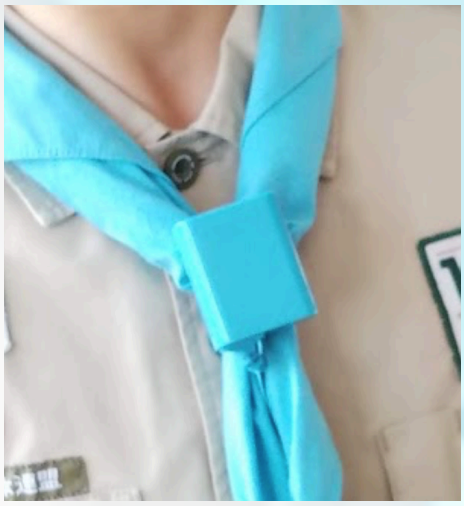
調布第*3*団 吉田千秋さん

ボーイ部門

狛江第*1*団 はそべめいさん

ベンチャー部門

武蔵野第*1*団 三好智己さん



ローバー・その他部門

狛江第*1*団 *T.S* さん

ソング＆ゲーム紹介　結果

いただいたスカウトソングにつきましては、応募していただいた方の顔、及び声が多く含まれておりましたため、公開は現在控えさせていただいております。
以下に、ご応募いただいたスカウトソングの曲名と応募者をご紹介させていただきます。

武蔵野第１団　より
　団歌『さつき』
　ベンチャー隊隊歌
　『正直じいさん』
　『山は峰まで』
　『カブコール』

狛江第１団　より
　団歌『団結と飛躍』
　　（たかのはし　さいとう　みしま　ふくだ　伊藤　*K.M.*）
　『みんなでおおきなわをつくろう』
　　（はそべ）

（敬称略）

おすすめスポット紹介

多くの作品をいただきました。ここで紹介するにはあまりある内容でしたので、詳細は本イベントホームページに掲載させていただきます。

インタビュー

賞を受賞したスカウトや運営に携わったスカウトへのインタビューを通じて、このイベントの様子、これからの地区の展望に迫ります。

・デザインコンテスト　最優秀賞　武蔵野第１団　ボーイ隊　なら　さん

・デザインコンテスト　優秀賞　狛江第１団 ベンチャー隊　岡田成佑　さん
武蔵野第１団　カブ隊　　村田悠　さん

・ネッカチーフデザインコンテスト 最優秀賞 小金井第２団ボーイ隊 かな さん

・デザインコンテスト　団体賞　武蔵野第１団ベンチャー隊代表　***N.S***　さん

・ネッカチーフデザインコンテスト団体賞 狛江第１団 羽曽部由美ビーバー隊長

・デザインコンテスト　地区審査員　柳久之　地区委員長

・デザインコンテスト　審査員　スカウト代表　狛江第１団　志村桃佳

・ネッカチーフデザインコンテスト　審査スカウト代表 狛江第１団 岡田真陽

オンラインでの対談形式で行ったインタビューは、ページ右下に『対談：井上』と記載しました

デザインコンテスト　最優秀賞　武蔵野第１団ボーイ隊　　なら　さん

ーーー最優秀賞受賞、おめでとうございます。
ありがとうございます。
ーーー作品についてお伺いします。この作品は何をモチーフにしましたか？
まると縦線を描き、１０を表しています。
中に円を描くように南武蔵野地区の市のマークを入れ、最後に１０*th*と描きました。
ーーーなるほど、外側の丸と縦棒で１０を表しているのですね。
ーーーこの作品を作るときに工夫をしたことがあれば教えてください。
丸と縦棒で１０を表したことです。
ーーー作品に込めた想いはありますか？
地区にこれからも元気よく、仲良くやっていって欲しいという気持ちです。

ーーーでは、普段の団や隊の活動の様子を教えてください。
みんな、真面目に、楽しく、元気よく活動に取り組んでいます。
ーーー団の特徴の中から、地区の中に広がって言って欲しいものはありますか？
元気よく、健康にあって欲しいです。
ーーーその理由を教えてください。
元気な方が楽しい生活につながると思うからです。
ーーー今年１０周年を迎えた地区ですが、これからどうあって欲しいですか？
これからもずっと、この南武蔵野地区が続き、２０周年も３０周年も迎えていって欲しいと思います。

ーーーこれから様々な活動がオンライン化していくと思いますが、これからのボーイスカウトにどうあって欲しいですか？
オンラインでも元気を失わずに楽しく活動できて行けたら良いと思います。
ーーー最後に一言お願いします。
これからもこの地区の皆さんが健康に、元気にいられたらいいなと思います。
ーーーありがとうございます。

対談：井上

デザインコンテスト　優秀賞　狛江第１団ベンチャー隊　　岡田成佑　さん

ーーーご自分の作品について説明してください

デザインには仲間たちと手を取り合う友情をイメージしました。緑に囲まれた南武蔵野地区のメンバーが、団を越えて手を取り合いこの先もいい活動ができるようにと願いを込めて描きました。そのため、背景には緑を使いました。

ーーー地区設立10周年にあたってこれからの地区にどうあって欲しいですか？

交流をさらに深め、南武蔵野地区がもっとにぎやかになって欲しいと思う。そうすれば、さらに仲間も増えるだろうし、みんなの笑顔も増えると思う。

ーーーこれから様々な活動がオンライン化していくと思いますが、これからのボーイスカウトはどうあって欲しいですか？

オンラインを通して活動ができることは良いことではあるが、家での活動だと注意散漫して参加に支障がでる場合もある。
一日でも早く対面での活動ができるようになればいいと思う。

デザインコンテスト　優秀賞　武蔵野第１団カブ隊　　村田悠　さん

ーーー作品について説明してください
真ん中にネッカチーフが置いてあって、その周りに南武蔵野地区の市の形を置いてある絵を描いています。
ーーーでは、これを作るにあたってどんなことに気をつけましたか？
出すときに３色しか使えなかったので、そこに気をつけて描きました。
みんながいる南武蔵野地区をバッチに一つにしようと思って描きました。
ーーー制限のある中で頑張ってくれたのですね

ーーーこの作品を作っているとき、どういう気持ちで描きましたか？
絶対に入賞してやるぞという気持ちで描きました
ーーーさすがのお気持ちでの入賞、改めておめでとうございます。
ありがとうございます。

ーーーでは、地区についてです。*10*年目の誕生日を迎えた地区ですが、これからどうのようにあって欲しいですか？
コロナにも負けない元気な地区であってほしいです。

ーーーコロナという話が出ましたが、これからいろいろな活動がオンラインでできるようになるかもしれません。これからオンライン化が進んでいくボーイスカウトに対し、これからどのようにあって欲しいですか？
オンライン化していく中でも、活動をやりながらボーイスカウトの『良さ』を生かし続けて欲しいと思います。
ーーーこれまでの良さを活かしながらということですね。

ーーーでは最後に一言お願いします。
これからも頑張っていって欲しいです。

ーーー質問は以上です。ありがとうございました。
ありがとうございました。

対談：井上

ネッカチーフリングコンテスト 最優秀賞　小金井第2団ボーイ隊　かな さん

ーーーご自分の作品について説明してください
材料はプラバンとUVレジン、小さいラメ
パール、チェーン、小さい飾りです。このネッカチーフリングは海をモチーフにして作りました。工夫した所は海の波を表現するため、青から白にかけてペンでグラデーションにしたり、プラバンを波の形になるようにねじりながらリング部分を作ったのが難しかったです。
ーーーご自身とってネッカチーフ、ネッカチーフリングとはなんですか？
私のつけているネッカチーフはボーイ隊に上進した時に自分で作りました。下のスカウトが上進した時はボーイ隊のスカウトと保護者で協力してたくさんのネッチを作りました。同じネッチをつけていると仲間意識が自然と出てくる気がします。

ーーーご自身の団・隊の普段の活動の様子を教えてください。
団行事はビーバーからローバー、保護者やスカウトの兄弟もたくさん来て、もちつきや自分達の育てたバケツ田植えのイネを使って料理したり工作したり、みんなで楽しく活動しています。

ーーーご自身の団の特徴や雰囲気の中で、地区の中にもっと広がって欲しいものを一つ挙げ、その理由を教えてください。
私の団のように、男の子だけでなく女の子も入れるようにしてもらいたいです。
地区ラリーに参加した時に女の子が少なかったからです

ーーー地区設立10周年にあたってこれからの地区にどうあって欲しいですか？
地区で一緒にやる活動を増やして、地区の同じ世代の女の子達とも交流できればいいなと思います。

ーーーこれから様々な活動がオンライン化していくと思いますが、これからのボーイスカウトはどうあって欲しいですか？
オンラインで何度もやりましたが、対面で活動する方がやっぱり楽しいです。
今はコロナで対面活動が出来ないけれど、オンラインがあるから画面で会う事ができるし、相談する事もできます。オンラインがなければ何もせず時間が過ぎてしまい、今までやってきた事を忘れてしまうけど、オンラインがある事で確認ができるので、それはいい事だと思います。

デザインコンテスト　団体賞　武蔵野第１団　ベンチャー隊　今木 尚 さん

ーーー普段の活動の様子を教えてください。

今はzoomで活動をしていますが、普段は『スカウトホーム』というカトリック教会の中の施設で活動をしています。
普段は夏と春にキャンプを行い、その他に夏祭りやバザー、赤い羽根の共同募金の呼びかけ、市の行事のお手伝いなどのイベントがあります。特にボーイスカウト以上は１週間に及ぶ長期キャンプが特徴です。武蔵野第１団の創始者　カール・ライツ　神父がドイツ人であることからドイツのボーイスカウトとの親交があり、数年に一度スカウトを交換しての交流をしているのも特徴です。ベンチャー隊では台風被災地へのボランティア活動や、教会関係者に会いに福岡から吉祥寺までの駅伝やクリスマスパーティーなどの自発的な活動をしています。

ーーー団全体での大規模な活動も多いですよね。

はい。大規模な活動だけでなく、伝統的な活動もあります。

ーーーベンチャー隊の行う江ノ島オーバーナイトハイクなどですね。このように大規模で伝統の深い武蔵野第１団ですが、大規模で伝統が深い割には新しい活動にも積極的に取り組み、（その活動の多くが）安全に行えていると思います。その理由は何故でしょうか。

経験の豊富な指導者がいることと、スカウト全体でやって良いことといけないことの線引きがしっかりしているからだと思います。

ーーーでは、武蔵野第１団の特徴のうちで地区の中にもっと広がって欲しいものはなんですか？

地区の他の団の活動の様子がわからないのでなんとも言えませんが、武蔵野第１団はやることのスケールが大きいと思います。例えば引っ越し用のトラックに丸太を積んでキャンプ用の資材としたり、キャンプ場まで自転車で往復したり。このようなことにも安全な範囲でチャレンジしていく姿勢が地区に広がって欲しいです。

ーーー確かに武蔵野第１団７０周年記念キャンプなどは武蔵野第１団らしいものでしたね。
ーーーさて、設立10周年を迎える地区ですが、これからどうあって欲しいですか？

コロナ禍で実態的な活動場所に集まらなくなったからこそ、普段の活動場所にとらわれない活動を展開していきたいですね。
ーーー活動場所と言えば、武蔵野第１団は普段の活動場所で集まれなくなった今も、いつも通りの活気は失っていないと思います。その秘訣はなんでしょう。

人数が多いことが一番だと思います。地区の中で最大人数を抱える武蔵野第１団だからこそ、お互い刺激しあっていられると思います。

ーーー地区の活動活発化のためには、地区のスカウトがオンライン上でつながり、武蔵野第１団のようにお互い刺激し合えると良いのかもしれませんね。

はい。コロナによるオンライン活動だからこそ繋がれると思います。

ーーーでは、これから活動がオンライン化していくであろう日本、はたまた世界全体のスカウト活動にはどうあって欲しいですか？

自分はスカウト活動を通じて、これからの社会で必要になる、『自分の意見を発信する』という力を身につけたと思っています。同じようにスカウト全体が意見を発信しあって欲しいです。また、そんな中で自分とは異なる価値観や意見を持っている人と出会った時にもお互い認め合ったり、話し合いのうちにより互いの考えを深めて行けるようになって欲しいです。価値観の違う人たちと活動をしていく上で大事だと思います。

ーーーこれからの多様性社会を牽引するようなスカウトでありたいですね。
ーーーでは最後に一言お願いします。

最近好きな言葉ですが、”No Rain, No Rainbow”
コロナ禍で大変な状況ですが、それもきっといつか終わり、虹のかかったいつも通りの日がまた来るだろう、と。
ーーーなるほど。　雨が上がった時、これまで乾いていたところに新しい花が咲いて欲しいですね。
ありがとうございました。

ありがとうございました。

対談：井上

ネッカチーフリングコンテスト 団体賞狛江第1団ビーバー隊 羽曽部由美隊長

ーーーご自身の団・隊の普段の活動の様子を教えてください。

緊急事態宣言下でもオンラインで活動を続けてきました。
ビーバーのみんなは、自分が話すときには自分でマイクをオンに切り替えて、上手に端末を使っています。そのときは、どの子もちょっと得意げです。
みんな、大人の予想を超えてくるので、「天才か！」と毎回思っています。
緊急事態宣言が解除された日、「次の活動は、みんなと会えるかもしれないね！」と伝えると、子どもたちはガッツポーズや拍手をして喜んでいました。
対面の活動では、たくさん冒険をしたいです。もうワクワクがとまりません。

ーーーご自身の団の特徴や雰囲気の中で、地区の中にもっと広がって欲しいものを一つ挙げ、その理由を教えてください。

団舎がないので 地域センターや河川敷、公園で活動をしています。特に火をつかえる場所が限られています。心置きなく火を使って活動できる場所を地区で共有又は開拓してほしい。

ーーー地区設立10周年にあたってこれからの地区にどうあって欲しいですか？

みんなで大きな輪を作れるようになってほしいです。

ーーーこれから様々な活動がオンライン化していくと思いますが、これからのボーイスカウトはどうあって欲しいですか？

どんな状況でも知恵や工夫でのりこえる力を身に付けてほしいです。

デザインコンテスト　地区審査員　柳 久之　地区委員長

ーーー審査をした作品全体に対してどのように感じましたか？

*7*つの行政区にまたがる地区構成から導かれるものかどうかは判然とはしませんが、それぞれの市のシンボルや地形や花木などを取り入れた作品が多くみられ、地域連携の姿を表現されていたことが印象的です。
また、年少部門の作品には、年代のカラーやキャップなどシンボリックフレームワークがデザインに組み込まれていて、この活動の特色を表現されていることに嬉しく思いました。

ーーー地区設立*10*周年にあたってこれからの地区にどうあって欲しいですか？

都区部に隣接する地区ですが、緑が多く自然が残されている中で、それぞれの年代が活発に活動を展開していただき、幼少期から地区内のスカウト同士がいろいろな場面で一緒に活動をする機会を多く持つことによって、成人としての社会貢献に資する地区であってほしいと思っています。

ーーーこれから様々な活動がオンライン化していくと思いますが、これからのボーイスカウトはどうあって欲しいですか？

世を挙げて*DX*が話題になっていますが、これらのツールを上手に使いこなして活動を推進する道具立てを整えることが大事だと思います。スカウト活動の中でデジタル技術を活用したいろいろな場面を作りだして戴くことこそこれからの運動の醍醐味だと思います。

編集者注　*DX*：「デジタルトランスフォーメーション」の略。*IT*化によって生活をより良くすること。

デザインコンテスト　審査スカウト代表　狛江第１団　志村桃佳

ーーー審査をした作品全体に対してどのように感じましたか？

隊によって作品のモチーフに違いがあって面白かったです。例えば、ビーバー隊やカブ隊の作品では自然や普段の楽しい活動を連想するものが多く、ボーイ隊以上となると視野が広がり、「オンライン」や南武蔵野地区全体をモチーフとしたものが多いように感じました。どの作品も発想豊かで審査していてとても楽しかったのですが、甲乙つけ難く、とても悩みました。

ーーー地区設立10周年にあたってこれからの地区にどうあって欲しいですか？

今回のオンラインコンテストで沢山の他の団のスカウトと交流することができ、とてもいい機会であったと思います。是非地区の他の隊とも交流したいと感じたので、もっと地区内での一緒にできる活動を増やしてほしいです。

ーーーこれから様々な活動がオンライン化していくと思いますが、これからのボーイスカウトはどうあって欲しいですか？

最近ではオンラインでも様々なことができるようになっており、今回のオンラインコンテストもその一つです。最新の技術をうまく活用してオンラインでの活動をさらに充実したものにするだけでなく、オンラインと対面活動を融合させ、今までにない新しいことに挑戦できる場になって欲しいです。

本誌・本活動ホームページの挿絵も志村さんにご協力いただきました。

ネッカチーフリングコンテスト 審査スカウト代表　狛江第１団　岡田真陽

ーーー審査をした作品全体に対してどのように感じましたか？

応募された作品は全体的に扱いやすく、それぞれ工夫した点が明確に表れている作品でした。リング部分にはトイレットペーパーの芯やペットボトルの飲み口部分などの身近にあるものを使用している作品や、ネッカチーフリングに温度計を貼り付けたものなどの独特な発想によって作られた作品もあり見ていて非常に面白かったです。

ーーー地区設立*10*周年にあたってこれからの地区にどうあって欲しいですか？

各団、スカウトの数を積極的に増やし、他団との交流をさらに積極的に行えるような地区になってほしいです。

ーーーこれから様々な活動がオンライン化していくと思いますが、これからのボーイスカウトはどうあって欲しいですか？

オンライン活動の家に居ながらでも活動に参加できるという利点をうまく利用し、地区や県問わず、他団のスカウトとの交流を積極的に図ってほしいです。

１０周年記念イベント　運営スカウト代表 狛江第１団　塚本傑

ーーーこの活動を通じての感想を教えてください。

一年という長い期間での活動だったのと、他団スカウトとの活動だったので、とても大変でしたが良い刺激となりました。募集が始まってからしばらくは（応募数が伸びず）どうなることかと思っていましたが、最終的には200件にのぼる応募をいただけたのはよかったです。
また、普段自分の団でやっていたことを地区全体でオンラインで行ったので、形式の面でも（求められる）クオリティの面でも普段とは大きく異なる全く前例のないことだったと思います。
活動に参加したみんなの知識と努力をもって地区の人に認めてもらえるものを目指しました。

ーーーありがとうございます。普段の団の活動から地区内での活動へのギャップが大きかったのですね。では、そんなご自身の団・隊の普段の活動の様子を教えてください。

コロナ禍でも比較的活発に活動しています。毎週のオンラインミーティングで進級課程や普段通りの連絡を行ったりしています。

ーーーなるほど。それではご自身の団の特徴や雰囲気の中で、地区の中にもっと広がって欲しいものを教えてください。

学校以外でずっと同じメンバーで過ごしているので、団独特のアットホームな距離感があります。
この距離感が地区内にもこれからもっと広がっていって欲しいです。

ーーーありがとうございます。では、これからコロナ明けても様々な活動がオンライン化していくと思いますが、これからのボーイスカウトはどうあって欲しいですか？

これまでにかなりの活動がオンライン化しましたが、これまでの100年以上にわたるボーイスカウトの歴史の中で当たり前だったことがどんどん変わっていると思います。この変化が続いていって欲しいと思います。

ーーーでは、最後に一言お願いします。
団の枠を超えて地区のみんなで仲良くなれるような活動を展開していって欲しいと思います。

ーーーありがとうございます。まだイベントは途中ではありますが、これまで一年と少しお疲れ様でした。

ありがとうございました。お疲れ様でした。

対談：井上

編集後記

本オンラインイベントがこうして一つのゴールに到達するまで、私たち実行委員はさまざまな方にご協力や助言をいただいてきました。 誌面上ではありますが、ご協力いただいた全ての方に心よりの感謝の意を表明させていただきます。
また、地区スカウトの皆さんのご協力あって本イベントの盛況につながりました。本当にありがとうございます。

さて、自分が本誌を執筆するにあたり受賞スカウトや運営スカウトの一部と対談形式でのインタビューを行いましたが、単に文書形式でインタビューをした時と比べて質問の回答やその意図に深く迫ることができたと思います。また、インタビューの内容としてオンライン化に関しては『これからの活動にはオンラインとリアルを融合させていく』、『そうした変化を柔軟に、積極的に受け入れ活用する』という意見や、これからの地区内でのより強固な結束を求める声がありました。これからも続くであろうコロナ禍ですが、今回とは違った形式のイベント等を通じて、このような地区を目指して欲しいと思います。

手前味噌ではありますが、地区内のさまざまな年代のスカウトの意見やこれからへの展望をまとめたある種の資料としても本誌を活用していただければ幸いです。

長らく本イベントにご協力いただきありがとうございました。

設立*10*周年記念南武蔵野地区オンラインイベント運営
ホームページ・システム班　広報班　代表
武蔵野第１団 ベンチャースカウト隊
井上 祥一